参加学会：ゴールドシュミット会議（Goldschmidt 2007：地球化学分野の国際学会）

参加者：　　遠山　知亜紀　（修士課程１年、村松研究室）

開催期間と場所： 2007 年 8 月 19 日～8 月 24 日　ドイツ・ケルン大学

タイトル：「ICP-MS を用いたキンバーライト中の 33 元素測定」（Determination of 33 elements in kimberlites from South Africa and China by ICP-MS）

中国(山東省・遼寧省)と南アフリカで採取されたキンバーライトに含まれる 33 元素について ICP-MS 法を用いて分析した。その結果、両地域の試料とも一般的な超塩基性岩に比べ、不適合元素(Ba, La, U などイオン半径が大きい、またはイオンの価数が大きい元素)が濃縮していた。また、太陽系平均組成(CI)で規格化した希土類元素のパターンは、軽希土が非常に高く重希土が低い傾向にあった。また、I と Br は、南アフリカ産は、I 濃度が比較的高く、中国産は、Br 濃度が高い特徴が見られた。得られた結果から、両地域における化学的特徴や起源について考察し、報告した。

私は、この国際学会が初めての学会参加であり、何もかもが驚きの連続であった。最も興味が湧いたのは Earth's First Billion Years というセッションである。このセッションでは、私が研究で苦戦した元素(Hf)や、これから注目しようとしている元素(Nd)などの研究発表を聴いた。もちろん、発表はすべて英語で行うため、話すスピードに理解が追い付かないことがほとんどだった。そんなときは、スライドにある図などから内容を理解するよう努力した。

また、ポスターセッションは、1000 を超えるポスターが展示されていて、その光景に圧倒された。まず雰囲気に慣れるため、日本の方のポスターを回った。私は、人見知りが激しいため、最初は知らない人と会話や議論をすることは、とても難しかった。しかし、徐々に慣れ、議論を楽しめるようになった。聞いたことのない研究の数々にとても刺激を受けた。例えば、人の呼気に含まれる CO_2 の炭素同位体比の研究だ。こんな研究もあるのかと、驚いた。また、自分のポスター発表については、自分の研究が、人から関心を持たれるのか心配だったが、実際は、たくさんの人がポスターを見に訪れてくれた。中には、私をよそに、私の研究について熱い議論を交わす人々もいた。自分の研究が、人から関心を持たれていることを知り、以前より研究にやる気が生まれた。

この学会に参加し、自分の視野の狭さや、英語力のなさ、人に説明する難しさを痛感した。しかし、それと同時に、言葉が通じなくても、伝えたいという気持ちがあれば、簡単な単語やジェスチャーで相手に言いたいことが伝わることも知った。また、自分と似た研究をしている方や、私が参加させてもらっているキンバーライトプロジェクトの一員の方とも出会った。帰国後も数人の方には、お世話になっていて、ここでの出会いはとても貴重なものとなった。

初めての海外であったので、飛行機に乗った時点から英語を使わなければならなくなったことに衝撃を受けた。また、ドイツのほとんどの案内板がドイツ語だけということにとても困った。有名なケルンの大聖堂は、とてもすばらしいものでした。しかし、外壁などにたくさんの落書きがあり、その中に、日本語の落書きがあったことにとても胸が痛みました。